

## 平成31年度野幌自然環境モニタリング調査結果概要 ～ 野幌森林公園ではアライグマは広範囲で多数確認 ～

### 1. 調査項目及び内容

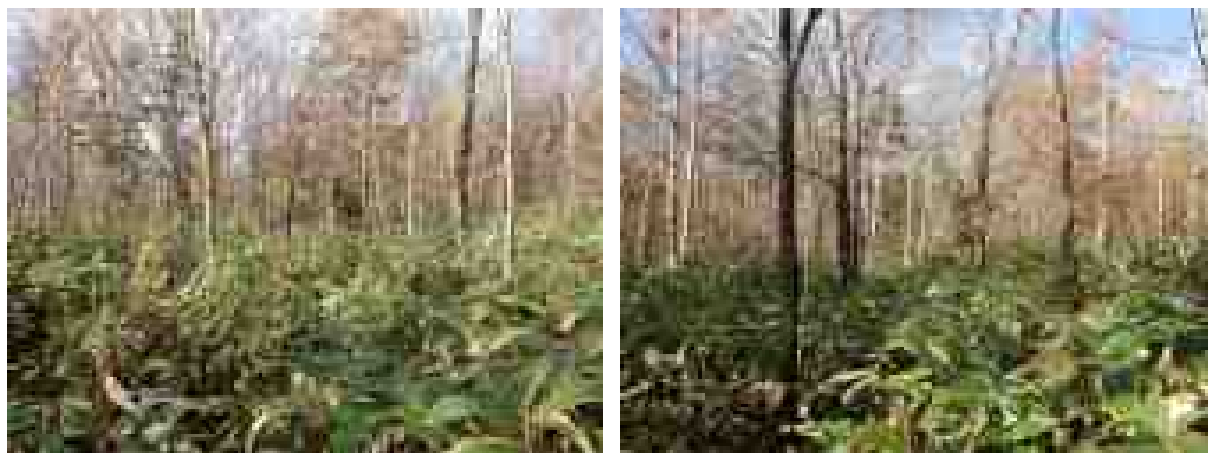
表-1

| 調査項目  | 内容   |
|-------|--|
| 森林植生  | 台風被害における天然更新及び植栽木の再生状況を把握。また、野幌森林公園において良好であると考えられる林相を有する天然林(以下、「良好な自然林」とする)の概要を把握する。   |
| 菌類    | 台風被害地、良好な自然林、台風被害を受けなかった森林において出現する木材腐朽菌の子実体(きのこ)を採取・同定し、森林の再生段階を菌類の面から検討を行う。           |
| 歩行生甲虫 | 台風被害地、林縁、林内において歩行性甲虫を捕獲し、得られる種から森林の再生段階を検討する。  |
| 野生動物  | 自動撮影カメラを用いた調査を実施し、森林の更新に影響を及ぼすと考えられるエゾシカ、特定外来種であるアライグマ、その他記録される野生動物から、森林の健全性について評価を行う。 |

### 2. 調査結果

#### 1) 森林植生調査

植栽列内・外に定着した植栽木以外の天然木の成長が著しい。植栽木は年々着実に伸長成長をしていて、根張りも広がっており、ササの稈高を抜きつつある。一方でツル類が樹木の生長を抑制している箇所が部分的に出てきた。ツル類をどのように処置するか考えていく必要がある。全体的に再生段階は第二段階と考えられる。



天然木の状況(ヤチダモ(左)とハルニレ(右))

#### 2) 菌類調査

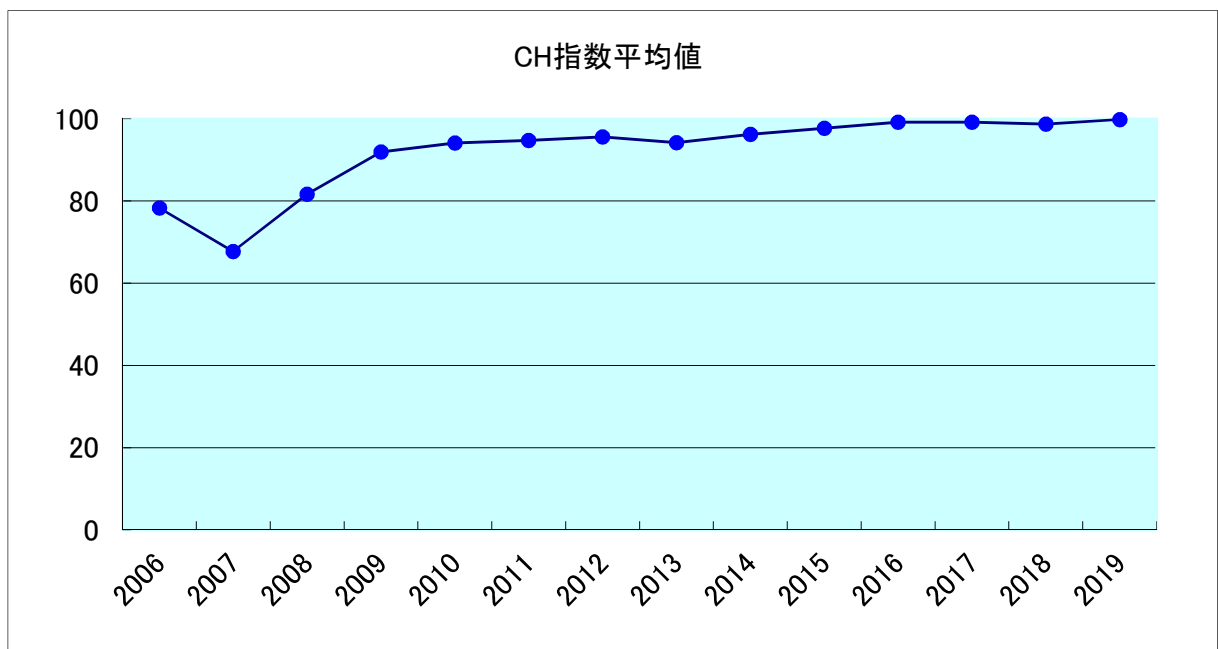
処理区において、植栽や天然更新した樹種の倒木や枯死木から発生する菌類が新たに21種が確認された。天然林区でも13種が新たに確認された。この要因として今年度は菌類が出現しやすい気候であり、全体的に普段出現しない種が出現しやすい可能性がある。確認種数の増減がみられたものの、確認種数の出現頻度に著しい変化は見られなかった。スエヒロタケ、カワラタケ、レンガタケ等の消長に明瞭な傾向はみられず、従前との大きな変化は見られないので、再生段階は第一段階から第二段階へ移行中と考えられる。

| ゴキブリ類の家屋繁殖出現頻度（1戸1ラット当たり）（取組） |             |      |      |     |     |       |      |      |     |     |        |      |      |     |
|-------------------------------|-------------|------|------|-----|-----|-------|------|------|-----|-----|--------|------|------|-----|
| 種名                            | 既取組（西三宮駅北側） |      |      |     |     | 天竺井区  |      |      |     |     | トナリ人工林 |      |      |     |
|                               | 10/10       | 10/5 | 4/10 | 4/5 | 0/5 | 10/10 | 10/5 | 4/10 | 4/5 | 0/5 | 10/10  | 10/5 | 4/10 | 4/5 |
| カスパンノイヌゲ                      |             |      |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| カエビシメダケ                       | ○           |      |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| おけらメダケ                        |             |      |      |     |     | ○     |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| トナリツグシメダケ                     |             |      |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| レンガメダケ                        |             | ○    |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| アラゲおけらメダケ                     |             |      |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| モトマルノコシメダケ                    |             |      |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| サカズキおけらメダケ                    |             |      |      |     |     | ○     |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| キカイシメダケ                       |             |      |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |
| キアンシメダケ                       |             |      |      |     |     |       |      |      |     |     | ○      | ○    | ○    | ○   |

○ 2019年のトナリ人工林に調査は実施されなかった  
 ○ 計測（4戸1ラット）

### 3) 歩行性甲虫調査

CH 指数の年変動をみると、2006 年は 78.3%で、2007 年は 67.7%と前年度より比率が下がり、以降 2012 年の 95.6%まで一気に上昇し、2017 年は 99.2%、2018 年は 98.9%から 2019 年は、99.8%で 100%に近づいて地表性甲虫群集は順調に回復してきているので、再生段階は第二段階の後半に入ったと考えられる。



CH 指数の平均値の推移

#### 4) 野生動物調査

確認種数と確認種構成については今年度、過年度で大きな違いは見られず、生息するほ乳類相に目立つ変化はない。エゾタヌキは2014年から2016年にかけて急増し、その後は疥癬の影響により減少傾向にある。特定外来種であるアライグマについては、調査開始時期より高い水準にあるが、著しい増加は見られない。環境省レッドリストで準絶滅危惧種とされているエゾクロテンは、本調査期間内に公園内に定着した可能性が高いと考えられる。



哺乳類の撮影頻度の推移

問い合わせ先：北海道森林管理局

石狩地域森林ふれあい推進センター

〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番

TEL 011-622-5114

E-mail: h\_ishikari\_f@maff.go.jp